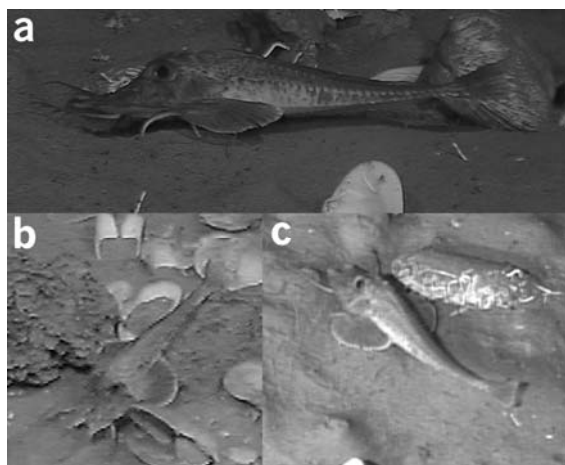


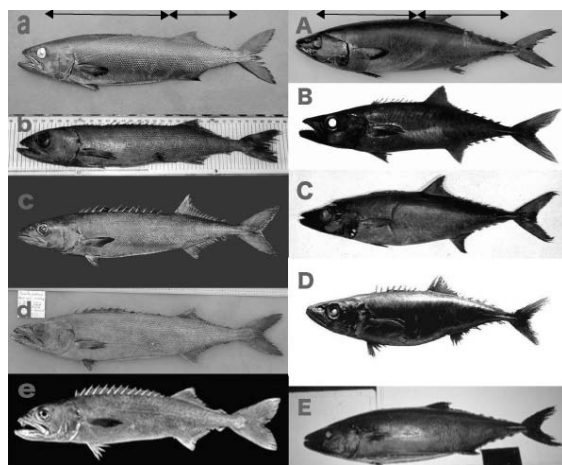
熱水海域に生息する深海魚のビデオによる種同定方法

○杉原早紀（横浜市立大学）、ドゥーグル リンズィー（海洋研究開発機構、横浜市立大学）

これまで、「しんかい 6500」をはじめとした海洋研究開発機構が保有する潜水調査船や無人探査機では、様々な深海に生息する生物や深海魚の映像がおさめられてきた。その映像や写真の一部は、JAMSTEC 国際海洋環境情報センター（GODAC）が運用する、「J-EDI 深海映像・画像アーカイブス」で公開されている。しかし、公開されている映像には、種を同定していない生物も多い。そこで、未同定の深海魚を同定するため、2004年から2012年にハイパードルフィンで撮影された日本の熱水海域の潜水映像を解析し、魚類検索図鑑や web を用いて種同定の研究を行った。この研究では、新たに種同定した深海魚とそれを同定した手順、また種同定のみでなく、魚の各部位の長さの比率や行動、環境などにも着目し、サンプルを得られなくても、映像だからこそ分かる分類形質や生きているときの様子などの情報を明らかにする。また、既に同定された深海魚であっても、その再検証や、新たな分類形質の発見、生きているときの情報を記載した。この研究により、利用されていなかった映像データの再活用に役立つ。さらに、研究対象とする生物は、海底資源があるとされる熱水海域の深海魚に絞ることで、海底資源研究開発センター・環境影響評価研究グループの、海洋生態系の生物相の解明研究にも貢献したい。また、今後同じような研究をする人に向けての手順を示すことにつながればと考えている。



同定したヒゲキホウボウ



バラムツとアブラソコムツの眼の後端から第2背鰭起部までと、第2背鰭起部から尾鰭起部間での長さの比率比較